

児童の主体的な探究を深める生活科の授業づくり
～「わたしの町はっけん」の学習を通して～

日立市立塙山小学校

1 はじめに

小学校学習指導要領生活編では、「具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。」と教科目標として設定されている。この目標の背景として、児童が身近な日々、社会及び自然と直接かかわる活動や体験を重視し、児童が自分の思いや願いを生かし、主体的に活動することができるようにするといった点があげられる。

本校の塙山学区には、交流センターや幼稚園や公園などの公共施設だけでなく、畳屋さんや酒屋さんなどの地元の方が経営する商店もある。また、ゲストティーチャーとして地域の方をお招きしたり、防災訓練を一緒に行ったりして、地域との交流も盛んである。

ここでは、第2学年の「わたしの町はっけん」の事例を紹介する。自分たちの住んでいる町に興味関心をよりもてるようにし、自ら調べたいことを調べ、自分たちの「町のたから」をたくさん発見し、町への親しみと愛着が深められるような学習活動を展開したいと考えた。

2 指導案

(1) 単元 わたしの町はっけん

(2) 単元の目標

- 自分たちが住む町を探検し、様々な場所やもの、人に出会いながら、町への親しみと愛着を深めようとしている。
(生活への関心・意欲・態度)
- 諸感覚を働かせたり、道具を利用したりして、町のことを調べることができる。
(身近な環境や自分についての気付き)
- 自分の好きな場所や人、心に残った出来事などを表現し、友達や地域の人に知らせることができる。
(活動や体験についての思考・表現)

(3) 指導にあたって

本単元は、学習指導要領の内容(3)と(4)を基に構成されている。児童が身近な生活圏である地域に出て、そこで生活したり働いたりしている人々と接し、様々な場所を調べ、利用することを通して、地域の人々が自分たちの生活を支えていることを理解していく内容である。また、地域に対する親しみや愛情を深めることができるようにすることもねらいとしている。

事前調査（男 15 名 女 11 名 計 26 名）

9 月 1 日実施

1	生活科の学習は楽しいですか。 楽しい 18 人 どちらかという楽しい 8 人
2	この町で好きな所はありますか。 ある 18 人 わからない 8 人
3	この町で好きな人やすてきな人はいますか。 いる 12 人 わからない 14 人
4	地域の方と話したり接したりしますか。 よく話す 6 人 どちらかという話す 8 人 どちらかという話さない 3 人 話さない 9 人
5	調べたことや気付いたことを絵や文でかくのは好きですか。 好き 11 人 どちらかという好き 8 人 どちらかという苦手 1 人 苦手 6 人
6	調べたことや気付いたことをみんなの前で発表するのは好きですか。 好き 6 人 どちらかという好き 7 人 どちらかという苦手 6 人 苦手 7 人

本学級の児童は生活科が好きで、町探検を楽しみにしている。しかし、地域の様々な場所や公共物、地域の人々までには関心がうすく、地域の人との関わりが多くない児童もいることがわかる。また、調べたことや気付いたことを絵や文でまとめることを得意にしている児童は多いが、人前で発表することは苦手だと感じている児童もいる。

そこで指導にあたっては、地域に出かけ、様々な人々の話や場所での気付きを絵や文を使ってまとめることで、それらに心を寄せ、自分の生活とのかかわりをさらに広げたり深めたりすることができるようにする。また、発表については、グループや学級で練習を重ねることにより、自信をもって発表にのぞめるようにする。さらに、本時においては、自分たちが町探検で見つけたすてきな人・もの・自然が「町のたから」であるということを確認し、発表会に向けて、自分たちが伝えたい内容を明確化できるようにしたい。

（４） 指導・評価計画（３２時間扱い）

第一次	町には はっけんが いっぱい	・・・・・・・・・・	１０時間
第二次	みんなの はっけんを あつめよう	・・・・・・・・・・	１５時間
第三次	町の 人に つたえたい（○は本時）	・・・・・・・・・・	７時間

時	学習内容	評価規準（観点）	評価方法
①	・グループでみんなに伝えたいことを考える。	・地域の人々や様々な場所が、自分たちの生活を支えていること気付くことができる。（気付き）	・記録 ・発言
2～4	・発表の方法を考え、発表するための準備をする。	・相手に伝わるように、発表方法を工夫している。（思考・表現）	・記録 ・発言
5	・学年で合同発表会をする。	・相手に伝わるように発表しようとしている。（関心・意欲・態度）	・行動
6	・町の人に伝える方法を考える。	・多くの人に伝える方法を考えている。（思考・表現）	・記録 ・発言
7	・「町のたから」発表会をする。	・町について調べたことをより多くの人に伝え、交流しようとしている。（関心・意欲・態度）	・行動 ・発言

(5) 本時の指導

①目標

地域の人々や様々な場所が、自分たちの生活を支えていることに気付くことができる。

②準備・資料

ワークシート 写真 ふせん 掲示資料

③展開

☆特に配慮が必要な児童への支援

学習活動及び内容	児童への支援と評価
1 前時の活動を振り返り、本時の課題を知る。 ・町探検での写真を見せ、探検での様子を振り返ることができるようにする。 町たんけんではっけんしたことをみんなにつたえよう！	・町探検の様子を簡単に振り返った後、本時のめあてを確認することにより、学習に意欲をもって取り組めるようにする。 ・本時の学習課題を全員で読むことで、学習の見通しをもつことができるようにする。
2 町探検での発見を書く。(各自) ・自動車学校には練習用の車がたくさんあったよ。 ・フルカワのおばあさんが優しくお店のことを教えてくれたよ。 ・郵便局ではみんなにお手紙をとどけるためにたくさんの人が働いていたよ。 ・たたみやさんではたたみのいいにおいがしたよ。 ・塙山幼稚園では幼稚園生が歌を元気に歌っていたよ。	・1人1人にふせんを配付し、発見したことを書き出すように話す。 ・発見したことをすべて書き出せるように、ふせんは多めに用意しておく。 ☆特に発見したことが思いつかない児童には、町探検の写真を見せ、様子を思い出せるようにする。 ・町探検での発見が「町のたから」であることを伝え、親しみや愛着をもてるようにする。 ・書き出したふせんは施設ごとのワークシートに貼り、どれくらい「町のたから」を見つけたのか、目で確認できるようにする。
3 「町のたから」の中から、みんなに伝えたいことをグループで話し合っ決めて決める。 ・自分の発見の中から決める。 ・同じ場所ばかりに偏らないように気を付ける。	(評) 地域の人々や様々な場所が、自分たちの生活を支えていることに気付くことができたか。 (記録・発言) (身近な環境や自分についての気付き)
4 本時の学習を振り返り、次時の学習内容を知る。	・次時の学習内容を伝えることで見通しをもたせる。

3 資料

掲示用の地図



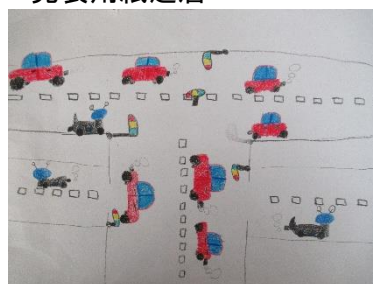
発表用紙芝居



町探検の様子



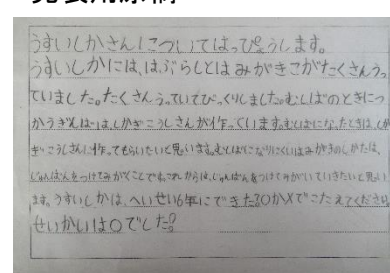
発表用紙芝居



町探検の様子



発表用原稿



4 成果と課題

（１） 成果

町探検では、実際に商店や施設を見たり、話を聞いたりする中で、これまで行ったことがある場所でも、次々に新しい発見をすることができた。事前に考えていた質問だけでなく、その場で疑問に思ったことを質問するなど意欲的に活動することができた。まとめを作成するにあたって、グループでそれぞれが発見したことを出し合い、どの発見をみんなに伝えたいのか考えるとともに、伝えたいことをわかりやすく伝えるためにはどのような発表の工夫をすればよいのか、積極的に話し合うことができた。発表会では、探検していない商店や施設についての発表をとて興味深く聞き、発表の内容以外に聞いてみたいことを質問していた。また、学習参観日に発表会を行い、児童同士だけでなく、保護者や地域の方にも「町のたから」を伝えることができた。発表後、「もう１回行きたい。」や、「今度お母さんで行こう。」という感想が多くあがったことから、町への親しみと愛着がより深められるようになってきたと考えられる。

（２） 課題

町探検は、ボランティアとして班に付き添ってくださる保護者の方や、地域の商店や施設の方の協力があって、より充実した活動ができるものと思う。児童たちの訪問を毎年快く受け入れてくれており、さらに児童たちがわかりやすいように掲示物を用意してくれている商店や施設も多くあり、とても協力的で恵まれている。その一方で、閉店などにより、新しく協力してくれる商店や施設を探さなければならないことや、どの日程で行えば多くの商店や施設にご協力してもらえるかを考えなければならないことが大変であった。また、平日に町探検を行うということもあり、ボランティアの保護者の方の人数を確保することがなかなか難しかった。